

第65回日本臨床眼科学会【ランチョンセミナー33】

# 収差解析と視機能評価

～優れたQuality of Visionの実現化にむけて～

日時：10月9日(日) 12:40～13:40

会場：東京国際フォーラム 第13会場 G510(ガラス棟5F)

共催：第65回日本臨床眼科学会/エイエムオー・ジャパン株式会社

## 座長



**木下 茂 先生**  
(京都府立医科大学)

1974年 大阪大学医学部卒業  
1978年 大阪大学眼科学教室 助手  
1979年 ハーバード大学眼科 研究員  
1984年 大阪労災病院眼科 部長  
1988年 大阪大学眼科学教室 講師  
1992年 京都府立医科大学眼科学教室 教授  
1999年-2001年 京都府立医科大学 医療センター長(兼任)  
2001年-2003年 京都府立医科大学付属脳・血管老化研究センター神経化学・分子遺伝学部門 教授(兼任)  
2003年 Adjunct Clinical Senior Scientist, The Schepens Eye Research Institute, Boston, USA (兼任)  
京都府立医科大学大学院医学研究科視覚機能再生外科学教授  
2007年-2009年 京都府立医科大学付属病院長(兼任)  
2008年 Honorary Distinguished Professor, Cardiff University, UK(兼任)  
2009年 同志社大学生命医科学部 客員教授(兼任)

近年の眼科手術においては、屈折矯正手術の流れを受けて、患者のQuality of Visionをより向上させるために、術前・術後の詳細な視機能評価が重要視されるようになってきた。また、技術的にも、このことが可能となってきた。たとえば、波面収差解析データを用いたウェーブフロントガイドドレーシックは、個々の眼に最適化したレーザー照射を行う、Quality of Vision向上に寄与する最先端技術のひとつである。言い換えれば、このような精緻な他覚的検査データを用いることにより、はじめて高次収差やコントラスト感度までが考慮された手術を行うことが可能となる。同様に、角膜移植や白内障手術においても、術後の視力のみならず、全般的な視機能を重視する傾向は高まっている。

そこで、今回は、収差解析の視機能評価における重要性、屈折矯正手術における視機能評価、フェムトセカンドレーザーを用いた角膜移植等における視機能評価、についてのエッセンスの講演をそれぞれの分野の専門家にお願いした。聴講者の皆様にお楽しみいただき、皆様のご理解の一助になれば幸いである。

## 演者



**前田 直之 先生**  
(大阪大学)

1984年 高知医科大学卒業  
1984年 大阪大学眼科学教室 研修医  
1992年 米国ルイジアナ州立大学眼科 リサーチフェロー  
1995年 大阪大学医学部眼科学教室 助手  
1999年 大阪大学医学部眼科学教室 講師  
2001年 大阪大学大学院感覚機能形成学 助教授  
2004年 大阪大学大学院視覚情報制御学寄附講座 教授



**荒井 宏幸 先生**  
(みなとみらいアイクリニック)

1990年 防衛医科大学校卒業 同大学付属病院眼科  
1993年 自衛隊中央病院眼科  
および国家公務員共済組合三宿病院眼科  
1996年 岡田眼科 眼科部長  
1998年 クイーンズアイクリニック開設  
1999年 南青山アイクリニック横浜 主任執刀医  
2010年 みなとみらいアイクリニック 理事長



**穂田 牧 先生**  
(京都府立医科大学)

1993年 京都府立医科大学卒業  
1993年 京都府立医科大学眼科 研修医  
1994年 京都市立病院眼科 研修医  
1996年 社会保険京都病院眼科 医員  
1997年 医療法人且能会 町田病院 医員  
1998年 京都府立医科大学大学院入学  
2002年 京都府立医科大学眼科 助手  
2005年 バプテスト眼科クリニック 院長  
2010年 京都府立医科大学眼科 助教



エイエムオー・ジャパン 株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-13-1 TEL.03-5402-8920 FAX.03-5402-8593

 **Abbott**  
Medical Optics